

佐久市議会議員 議会報告

高柳 ひろゆき 通信



発行 高柳 ひろゆき後援会事務所 佐久市塩名田 558-6
電話 0267-58-4367 携帯 090-4613-0021
メールアドレス shionada5586@ybb.ne.jp

● ご挨拶

残暑厳しき折ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年の夏は、異常気象により引き起こされた西日本豪雨や猛暑により、多くの方々が犠牲となりました。

謹んでお悔やみ申し上げます。また被災地の皆さまにおかれましては、一日も早い復興をお祈りいたします。

佐久市は、災害に強い地域といわれていますが、想定外の事態も予想して、防災訓練をしないではいけないと思います。

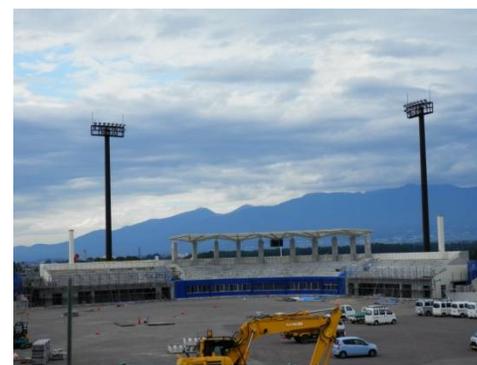
さて、今回は6月4日～6月28日までの25日間開催された第2回定例会での、全会一致で可決された主な補正予算

の事業内容と金額また3請願・陳情の内容につきましてご案内させていただきます。

● 主な補正予算と3請願・陳情について

※補正予算（当初予算成立後に諸事情により予算を増やす事）

- ① 佐久平1地区、平賀地区及び常木地区の農業用、用排水路改修事業に係る土地改良区への負担金 8,671万5千円
- ② 中央隣保館改修工事費用 5,198万円
- ③ 都市計画道路「跡部臼田線」の道路整備費用 8,215万4千円
- ④ 臼田地区新小学校整備に係る用地購入及び物件補償経費 2億5,542万5千円
- ⑤ 総合運動公園案内用看板設置及び野球場、場外トイレ建設に係る経費 3,700万円



工事中の総合運動公園 野球場

※3請願・陳情（諸問題をめぐり決定権を持つ国会や官公庁に実情を述べ善処を要望する事）

① 義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書

義務教育費国庫負担制度は、国が必要な経費を負担する事で、義務教育の機会均等とその水準の維持向上を図るための制度として大きな役割を果たしてきましたが、昭和60年から国の財政負担を理由として、これまでつぎつぎと対象項目を外し、一般財源化してきました。義務教育国庫負担制度は、現在堅持されていますが、費用負担の割合が2分の1から3分の1に引き下げられ、地方財政を圧迫する状況が続いているので、負担率を2分の1に復元する事を求める内容です。

② 国の責任による35人以下学級推進と、教育予算の増額を求める意見書

国の責任において計画的35人以下学級を推し進めるため、公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律改正と教職員定数改善計画を策定し、そのための教育予算の増額を行う事。また複式学級の学級定員を引き下げる事を求める内容です。

③ 地域からの経済好循環の実現に向け、最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書

最低賃金を千円以上に引き上げる事や、中小企業の負担を軽減するため中小企業とそこで働く労働者の社会保険料負担の軽減制度の実現、また大企業による優越的地位の濫用、代金の買い叩きや支払い遅延をなくすため、中小企業基本法、下請法、独占禁止法の抜本改正等を求める内容です。

最低賃金については新聞記事に、長野地方最低賃金審議会は8月6日最低賃金を過去最大の26円引き上げ、821円とする事を労働局長に答申、上げ幅の26円は厚生労働相の諮問機関、中央最低賃金審議会が長野県の賃上げ幅として検討していた額と同額であり、審議会の委員は公益代表、労働者代表、使用者代表の各5人の計15人で構成され、先日8月6日開催の総会には出席者13人が出席し、公益代表の会長を除く12人で26円アップの採決をしたところ労働者代表5人、公益代表3人が賛成、使用者代表の4人が反対。長野労働局は21日まで答申内容に対する異議申し立てを受け付け、申し立てがない場合は、10月1日に答申通り改定すると掲載されていました。政府が掲げている全国平均1,000円の実現が一日も早く達せられる事を望みます。

●下記の一般質問を行いました

移住定住推進事業について

(高柳)

佐久市生涯活躍のまち構想について、市の基本的な考えまた臼田地区・佐久平周辺における事業について伺います。

(茂原経済部長)

佐久市では、国が地方創生の一環として進めております「生涯活躍のまち構想」に基づき平成27年度、「佐久市生涯活躍のまち構想」を策定しました。構想ビジョンは、人口減少を打破し、地域の活性化を図るため東京圏をはじめとする、大都市に住んでいる健康な高齢者を中心に移住を促し、他世代の地元住民と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、継続的なケア体制が確保された地域づくりを目指すものです。市の地域特性を活かし、地域の病院を中心とした「医療連携・健康づくり推進型生涯のまち」とし、都市型と農村型の2つの形態を想定しています。都市型は利便性の高い佐久平駅周辺において大学や商業施設、公共施設に近い地域で、これまでの経験を活かし、生きがいを持って生活する事を想定しています。農村型は、自然豊かな臼田地区等において、農業や地域活動への参加を通して地域住民と触れ合いの絆を深め、生きがいや豊かな生活を送れることを想定しています。市では先行して臼田地区において事業をすすめており現在移住者の獲得にむけ東京有楽町にある生涯活躍のまち「移住促進センター」に佐久の紹介ブースを設営すると共に、佐久市に興味を持ち移住を検討されている方を対象に、定期的なセミナーを開催しています。また、移住後の住まいとして、市営住宅下超団地の一部を改修しサービス付き高齢者住宅として整備管理運営を担う事業者を、昨年度プロポーザル方式で「佐久市臼田地区活性化共同企業体」に決定いたしました。今年度は、事業者と連携を図り、サービス付き高齢者向け住宅の登録を行い50歳以上の方を対象に入居者募集を始めると共に、住宅の整備を行い、平成31年度の供用開始を予定してまいります。生涯活躍のまち事業は高齢者を中心とした移住施策ですが、市がこれまで進めてまいりました移住施策は年代を問わず対応させていただいております。

また今年度は、メインターゲットを20代から40代とし佐久市へ行ってみたい、佐久市でくらししてみたいと思わせる事で交流人口の創出、移住定住人口の増加につながる事を目的とした効果的で戦略的なプロモーションの方策を進めます。

(高柳)

臼田地区での生涯活躍のまち構想は成功させなくてははいませんが、他エリアでも積極的に展開してゆく予定ですか。

(茂原経済部長)

臼田地区での着手を進め、次は佐久平駅周辺で展開しますが、その後の構想はこれからです。

(高柳)

これからスタートするので、綿密な打ち合わせをし、是非成功に導いていただきたいと思えます。佐久市は交通の便もよく、医療介護面でも優れている。

移住という事では、空き家バンクの契約件数も全国でも屈指という事で、

生涯活躍のまち構想を推進する事になったわけですが、原則論としては60歳以上

が移住対象ですが、佐久市では50代まで緩和して受け入れを推進するようですが、**生涯活躍のまち移住体験住宅(下越)**

地元の高齢者の皆さまは、都会の高齢者がサービス付高齢者住宅に移住し終末医療や看護を受けるシステムと

勘違いし、被害者意識を持ちこの事業を快く歓迎しない風潮があります。生涯活躍のまち構想を成功に導くカギは、

受け入れ地域の皆さまはもちろんの事、市内の高齢者の皆様に誤解のない説明をし、移住してきた人々を

温かく受け入れてくれる地元住民の理解が必要であり、移住者と認識を共有しお互いに信頼感を築く事です。

又、雇用の確保についても、真剣に取り組まなければいけません。仕事に従事する事で、人間は生きがいを見出すことが

できます。またスポーツを通し体の健康が維持されます。佐久市にはスポーツ教室や森林セラピー、温泉等の環境が整い

健康を維持するには、条件が十分満たされていると思えます。又区長制度が充実しているので、地域の行事やボランティアまた公民館活動等、移住した方々を積極的に誘いし、お互いに絆を深め心の健康を維持する事もできます。

生きがいを見出し、体の健康、心の健康この3拍子が揃えば健康寿命が延び、生涯活躍のまち構想が達成されます。

高齢者の移住と若者の移住を相乗的に推し進め、若い人たちが支える側、高齢者が支えられる側のような一般論にしばられる

ことなく、従来その地で活動している人々との間での支えあう、その地に則した身の丈にあったコミュニティを作り上げる事が、地域の活性化に結び付く生涯活躍のまち構想の目指す行政の役割ではないでしょうか。

